
福 嶋 利 治

議長（村松 積） 次に、5番、福嶋利治君、質問を許します。登壇願います。

福嶋利治君。

5番（福嶋 利治） 5番、福嶋利治です。

先に通告いたしましたように、私はレストコスモスの現在の運営と経営状況について質問いたします。

平成2年6月1日にコスモスの湯がオープンして、利用者より「食堂や休息施設がほしい」との要望に応える形で計画され、事業費約6,000万円弱で、平成3年4月12日にレストハウスとしてオープンしました。

管理については村が行い、運営については商工会が行うことで始まり、当施設も何回かのリニューアルにより現在までできておると思いますが、当初この施設においても盛況であり、使用料も支払っておったかと思いますが、ここ数年、音声告知当の臨時休業のお知らせが数多く目にするようになってきており、私も地元でありますので、その湯の利用をいたしました。が、どうもレストコスモスのにぎわいがだんだんと薄れて寂しい気がしてならないのです。ついては最近のレストコスモスの運営と経営状況、現在までの使用料の納入状況と使用料の納入期間について質問いたします。

願います。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 福嶋議員の質問にお答えいたします。

言われたとおりでございます。これはちょっと経過を述べてみますと、平成2年に温泉が出ました。皆さんの地域もあの当時の勢い、熱海がまたできるんじゃない感動があったと思います。

それからあれでなかなか人が入るということでございまして、各町村があれを境に堰を切ったように各地に温泉を作りました。今、温泉といってもそんなに珍しくない状態になっていいことであろうかと思えます。

当然入湯客も減るわけでございますけれども、その勢いのいいうちにより温泉の相乗効果を高めようということでございまして、平成4年にレストコスモスを作りました。ご指

摘のように6,070万円で作ったわけでございます。当時は本当に人が入りました。どうしてこんなに入るんだかというほど入りまして、売り上げを村も出資しております。ということで村は少ないわけでございますけれども、出資しており、商工会のメンバーが主体となってやっております。

平成5年には、1億300万円の売り上げがありました。5年ピッチで申しますと平成10年度には7,400万円、平成15年には2,870万円、平成20年度には2,338万1千円ということでぐっと下がってしまいましたが一生涯懸命努力しております。ちょっと努力の足りないところもあったわけでございますが。

そうして、もう今たいが資本金を食いつぶすようになってまいりました。これでは仕方ないじゃないかということでございまして、7月ころからいよいよこれは基本的に立て直そうということでございまして、今までの経営陣のトップは引いていただきました。そして今度はそれべくの特にしらさぎ荘さんにも入っていただき、議会という立場でなくて宮嶋議員にも入っていただき、商工会の会長、それから指導員にも入っていただいて、徹底した改革をしようじゃないかということで今取り組んでおるところでございます。9月からいよいよ取り組んでおるところでございます、何とかいい結果を出したいなと思っております。

それでこの料金でございますけれども、あのバブル時代によくこんな契約を作ったものだと思っておりますけれども、私もこれ立ち会ったんですけれども、このくらいのものは払えるだろうと。だいたい6,000万円の中で4,000万円近くは払いなさいよと、施設で。新設に作ってあるものでございます。

それでその差額なんていうものはまだあの当時過疎債が使えた時分であって、全部が充当しないんですけれども、7割3割補助ということで、残りを全部施設で払えと。これは基本的にはそのとおりでございますけれども、そのために今ちょっとそんな状況じゃないということで、7カ月は270万円ずつ払いました。それから150万円が1回、135万円が2回ということで、トータル2,310万円払っております。

そして私は、これは相当まけてやるか、それとも今の状態でいくかということでございますけれども、今どこの自治体の三セクもほとんど補てん補てん補てんばかりでございます。村から補てんということでございまして、補てんがないところがいいところござい

ますけれども、それでも大きな整備に対しては村からも補てんをしておりますけれども、これをシビアでやってやってやりまくってつぶしてしまうか、もう少し力を入れて免除してやって、そしてそれを復元して復活させてやるかということが今度の分かれ目でございます。これから相当経営のベテランの人も入ってもらわなければならないので、私も一応代表取締役という立場でございますので、これに加わって、何とかそれでもかしの横ばいでいけるようにしてみたいなということで、それで駄目だったらそこでまたしっかり考えるということで考えております。

私も時々飯田辺り行って飲むんですけども、中央通り夜歩いてもなかなかシャッターが閉まっているところが多いわけでございます。福島さんの地元にも今度は新進気鋭の施設もできまして、あれと同様またひとつこっちの方もご利用いただければありがたいと思っております。

そんなことで答弁終わらせていただきます。

議長（村松 積） 5番、福島利治君、再質問ありましたら。

5番、福島利治君。

5番（福島 利治） 今の村長さんのご説明はわかりましたが、これで当初その返済については期限があったのかなかったのかということで、利潤があればそれ払っていくというようなことなのか、それとも10年とか20年というものがあったのかという。そしてまたこの施設は村としても重要でありますので、どのように先ほど村長さんが言われましたように継続していったらいいかということをお願いしたい。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 大事なことを忘れました。

20年間払いなさいよということでございまして、4,000万円近く払えということで、それではんこを押せるくらい世の中は上昇気流だったということ。それから今言ったように売り上げ1億もあったんだと。あんな小さな施設で1億円あり、今2,200~300万円でございますけれども、そういうこの状況の変化。

それからこれからも相当この不景気の中で生活費もだんだん上がっていく。給料は所得は上がらないというのがある程度続くことは覚悟しなければいけない。その中でなおかつやり遂げなければいけないということで、重大な決意を持って望んでおり、どうしても

駄目だったらまたいろいろの施策。今度は目新しい施策そんなにはないと思いますけれども、に転換していくということでございますけれども、考えようによっては6,000万円の間、2,310万円とりゃまあまあだぞというような考え方もできるわけでございますので、そんなことも考慮にいただいて、いただけるもんなら何でもいただけということ、これは契約した私たちが悪かったんですけれども、そんなことをご理解いただければと思っております。

議長（村松 積） 5番、福島利治君。

昼食の時間でございますけれども、引き続き一般質問の方を行いたいと思います。